

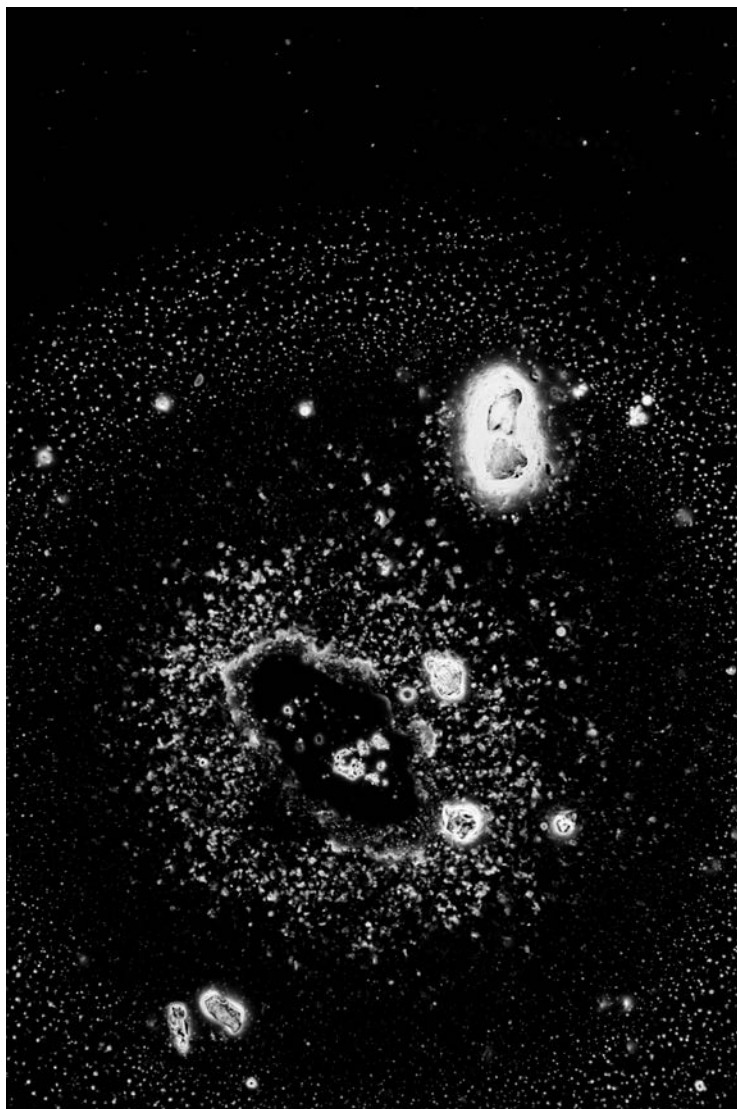
# Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

112

2024

春季号



日本大学芸術学部  
校友会ホームページ



日本大学  
芸術学部  
校友会

# CONTENTS

祝 名誉教授称号授与 原 直久 先生 .....03

祝 名誉教授称号授与 宮澤 誠一 先生 .....04

祝 名誉教授称号授与 野田 慶人 先生 .....05

第18回 日藝賞 .....06

江古田会ニュース

    青森江古田会・岩手江古田会 .....07

    秋田江古田会・新潟江古田会 .....08

    長野江古田会・愛知江古田会 .....09

    宮崎江古田会・台湾江古田会 .....10

皆さん今日は！ .....11

学科主任のごあいさつ .....13

学科ニュース

    写真学科・映画学科 .....15

    美術学科・音楽学科 .....16

    文芸学科・演劇学科 .....17

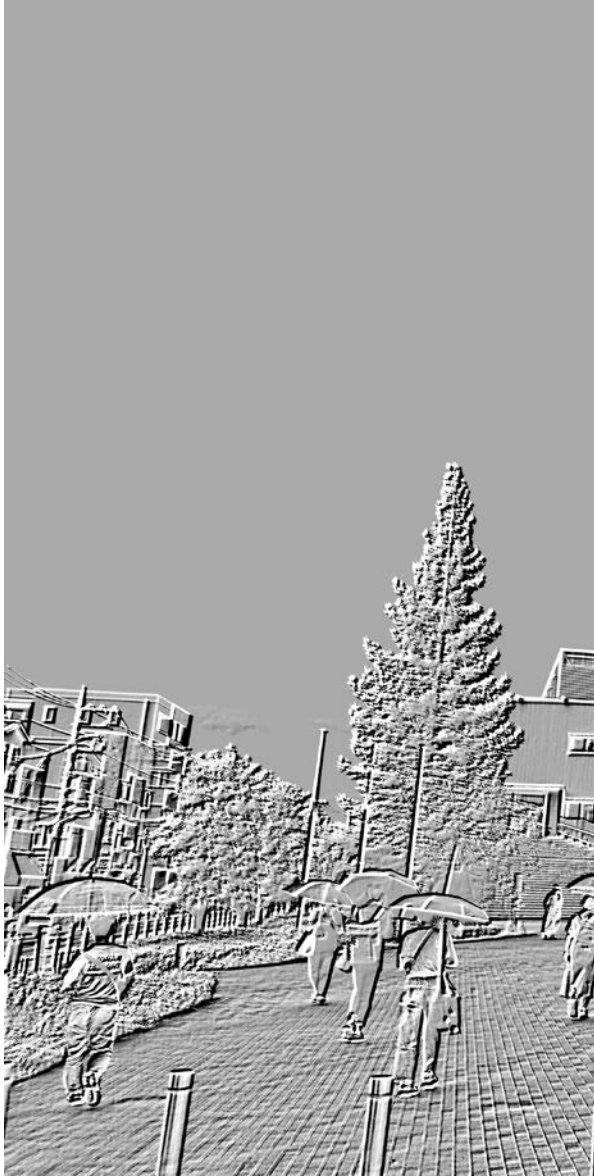
    放送学科・デザイン学科 .....18

2023年日芸祭報告 .....19

校友会からのお知らせ .....21

今昔江古田B級グルメ .....21

編集後記 .....22



表紙作品 チョンスヒョン (全 修賢)  
「THE VISIBLE UNIVERSE : NER SUPERCLUSTER」  
作品解説

広大無辺な宇宙の中、我々が観測してきたのは可視の宇宙 (The Visible Universe) というごく一部です。今まで観測された超銀河団は 5 つでしたが、最近もう 1 つの超銀河団の存在が判明しました。これは新しく発見された「ネル超銀河団 (Ner Supercluster)」の一部である不規則銀河ラバン (L-927) を撮影した写真です。ラバンの恒星などに白や青の割合が全体的に多いと判断され、白いという意味である「ラバン」と呼ぶことになったそうです。氷河期だと思われるような要素がある惑星も発見され、生命体が存在している可能性が期待されています。

(写真と文章で、1 つの世界観を創り上げた作品で、フィクションです)

総会  
懇親会  
のお知らせ

2024  
7 / 6

## 能登半島地震 お見舞い

このたびの令和6年能登半島地震で被災された方々と関係者の皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。  
被災地の皆様の安全と一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。



### ● 総 会

日 時：令和6年7月6日(土) 15時～

会 場：日本大学芸術学部内

※当日正門にてご案内いたします。

### 議 題

1. 会務報告
2. 各委員会活動報告
3. 会計報告
4. 予算審議
5. その他

### ● 懇親会

日 時：総会終了後17時からの予定

- ・喜寿を超えられた卒業生…ご招待
- ・それ以外の卒業生…5,000円

※総会が長引いた場合は終了後ただちに懇親会に移ります。

**\* 同封の返信はがきにご記入の上、  
必ず投函をお願いいたします。**

## 原直久先生おめでとうございます



この度、原直久先生が日本大学名誉教授の称号を授与されました。原先生は芸術学部校友会においても常任幹事そして副会長として永く会のためにご尽力して来られました。校友会としても誠に慶ばしく、心よりお祝いを申し上げます。

原先生のご経歴につきましては、2022年に発行された日本写真学会誌に先生ご自身がこれまでの歩みを振り返った文章を執筆されています。

### 「私の写真史ー裏通り写真家の写真史」 日本写真学会誌第85巻第3号 2022年8月20日発行

この「私の写真史」では、本格的に写真に興味をもち日本大学芸術学部写真学科に進学したこと、自然の風景や移ろう光に惹かれるようになり大学に残って写真制作の道を歩むようになったこと、その後フランスやイタリアなどヨーロッパの街や風景に強く魅せられ撮影に取り組むようになったこと、21世紀になってからは多くの卒業生の協力を得てアジア紀行シリーズの撮影を続けたこと、そして2017年に台湾国立歴史博物館で初期の蜃気楼シリーズから、パリ、フランス、イタリア山岳丘上都市、ヴェネツィア、スペイン、そして韓国、台湾、中国の北京、上海といった近隣のアジアシリーズに至るまでの作品を集大成した大規模な回顧展を開催するまでのことが、それ以外の経歴も含め原先生ご自身のリアルな言葉で書かれています。

残念ながらこの魅力溢れる文章は一般には閲覧できる形になっていませんが、日本写真学会誌にアクセスできる方はぜひ

ご覧になって頂ければと思います。ここではその記事から先生のご略歴を文末に示しておくことにいたします。

原先生はヨーロッパやアジアの古い歴史的な街並みを愛し、伝統的な8×10インチの大判カメラや古典的なブラチナプリントの技法で作品制作をおこなっていることから、「私の写真史」では自嘲的にご自身のことを「裏通りの写真家」と書いておられます。しかし、その作品の素晴らしさは広く認められているところで、東京都写真美術館や清里フォトアートミュージアム、日本大学芸術学部、台湾国立歴史博物館、上海美術館など内外の多くの機関に作品が収蔵されていることがそれを示しています。また2014年に富士フィルム株式会社が、優れた日本の写真作品を収集するフジフィルム・フォトコレクションを立ち上げた際には、日本を代表する写真家101名の1人にも選ばれています。

「私の写真史」は、主として写真家としてのこれまでの経歴を振り返った文章ですが、原先生の教育者としての功績も多大です。大学の教育者として1972年以来長きにわたり数多くの学生を指導し優秀な卒業生を送り出して来られました。指導した写真学科の学生は数え切れませんが、そして1993年度以降開設された大学院前期課程映像芸術専攻、後期課程芸術専攻では、主指導として合計して修士42名、博士5名という学位授与者を輩出していることは特筆すべきことです。原先生の写真家、教育者としての姿勢と人格の魅力に惹かれ、多くの留学生が写真学科や大学院を目指してきました。それが前記したアジア紀行シリーズの撮影にも繋がっているわけです。

また大学における役職としては、写真学科主任、学部執行部の就職指導担当、大学院担当、学部次長（所沢校舎担当および大学院担当兼任）として、定年を迎え

られるまで長く要職にあり、芸術学部や大学院の運営と発展に力を尽くして来られました。

また日本写真芸術学会では設立時以来の理事として、また会長として会の運営と発展に力を尽くされました。加えて写真学科同窓会会長や、芸術学部校友会副会長として会の運営にも中心的に関わり、卒業生と大学の「絆」の維持に努めて来られました。このような教育上、また組織運営上の功績はまさに名誉教授の称号に値するものと言えるでしょう。

最後になりますが、改めて原直久先生の名誉教授の称号授与をお祝いするとともに、今後ともお元気で活躍くださるとともに、後進のご指導を賜りますよう祈念申し上げる次第です。

高橋剛英（校友会副会長・写真学科  
昭和52年度・1977年度卒）

### 原直久先生略歴

|          |                                            |
|----------|--------------------------------------------|
| 1946年    | 千葉県松戸市生まれ                                  |
| 1969年    | 日本大学芸術学部写真学科卒業                             |
| 1972年    | 日本大学芸術学部助手                                 |
| 1976-7年  | 文化庁派遣在外研修員としてフランス・西ドイツで研修                  |
| 1984-5年  | 日本大学長期派遣研究員としてパリを中心に研究活動を行う                |
| 1994年4月  | 日本大学芸術学部教授                                 |
| 1996年4月  | 日本大学芸術学部写真学科主任                             |
| 2003年10月 | 日本大学芸術学部就職担当                               |
| 2004年6月  | 日本写真芸術学会会長就任（2015年6月まで）                    |
| 2005年10月 | 日本大学芸術学部大学院担当                              |
| 2011年10月 | 日本大学芸術学部次長・所沢担当（2014年まで兼務）                 |
| 2016年8月  | 大学院担当（大学院委員長）定年により辞任、以後非常勤講師として2022年3月迄勤める |



8-00532 1974/9/3 14:51 レアールの工事現場 パリ 1区 フランス



## 「大学時代の思い出」

現在 75 歳の私は、江古田校舎に通い出して今年で 57 年になります。「大学生活の思い出を書いて下さい」とのお話を頂いた時に、『思い出は美化される』との先人の言葉を思い出すと同時に、『思い出は、自分勝手』と常々思っているの、“どうするか” 迷いました。

結局、入学当時の忘れられない出来事を書くことにしたのです。最近、その当時の思いは、実は今も変わっていないんだと気が付いたからなのです。

映画界で生きたいとの思いで、江古田校舎に通い出し、クラブの劇映画制作研究会に入りました。世は 60 年安保闘争に続く 70 年安保闘争、そして学内は、大学の使途不明金を問う闘争で騒然としていました。

必修の映画構成Ⅰという 1 年生全員がコースに関係なく受講する科目で、8mm での課題が年間 8 作品を創る授業、担任は内田精一先生、吉田助手のクラスになりました。

新入生歓迎会と称して、日光学生村でのコースを横断した合宿があり、映画学科の自治会メンバーの先輩たちが主で、授業料に見合った設備や授業がない、大

学の現状は許せないとの状況を、各部屋で夜中まで語るのです。すごいところに来てしまったなどの思いと、それはイカン、と同調する思いが交錯しました。その後、クラスの飲み会が、今はありませんが江古田駅の北側線路に面した「わだ屋」の 2 階で、先生、助手の方々が主催で行われ、先生たちは、自治会メンバーに同調する意見を話し、考えるように語ってくれました。

正門を入ってすぐの広場で、学生たちの演説会があるから、クラブのメンバーは参加するようと言われ、体育館座りで聞いていると、学校の教職員と見られる方々が私たちの周りを取り囲んで、時には何食わぬ顔で蹴とばして行く状況に見舞われました。

6 月に入ると芸術学部闘争委員会は、熱い行動に出なければならないという雰囲気になり、中旬には学校封鎖を行いました。私も金槌、釘を持ち、テーブル、椅子でバリケード造りを行いました。映画スタッフの我々は、バリケードを造るのが得意でした。

闘争委員会メンバーは、学内に泊まり込んで、これからの闘争をどの様に進め

て行くかを喧々譁々話していたと思われていますが、末端の私は、役立つことはできなかったことと、闘争委員会が分派したこともありで、8 月末にバリを出たのでした。

翌年の大学再開までは、長い夏休みみたいなものでした。映画の現場に行きたく、最初に国際放映の装飾部でアルバイトをしだしたり、池袋アートシアターで演劇創作に嵌ったり、教習映画センターで自動車教習用作品を手伝ったり、G P プロダクション、読売映画社等々で作品を手伝ったりと、100%ではないが、出来ることはやったという生活でした。

踏み絵のようなアンケートに答えて学校に戻り、実習・卒業製作作品を多数手伝いながら、映画の現場等にも行っていたという状況で、この思いと動きは、今も続いているようです。

宮澤誠一（映画学科 D コース昭和 46 年度・1971 年度卒 学生番号 32115 番）



宮澤先生、名誉教授就任おめでとうございます。

先生の魅力を一言で表すと「情報魔」。一体どこから仕入れてくるのか、次々と情報が出てくる。これは永年の多岐にわたる活動の成果なのでしょう。

「ミスター映画学科」と呼ばれる日芸ファースト、学生ファーストの教員としての姿。勿論映画制作者であり、日本映画・テレビ編集協会の副理事長を務めるなどの映画人としての姿、舞台照明家としての姿もある。また、江古田、所沢校舎近隣の方々との交流、本校友会での活動。このような豊富な人間関

係から多くの情報を交換していらっしゃるのでしょうか。

更には新しい物好き。話題になるとすぐ飛びつくという積極性により獲得した物は、映画制作や教育の血や肉となり、我々後輩へ成長の力として授けてくださる。

世の中の情報は絶え間なく、美味しい情報に溢れていますので、これからも活躍の場を広げられていくことでしょう。益々のご活躍を祈っております。新しい情報くださいね。

映画学科前主任 齊藤裕人（映画学科 H 元年度・1989 年度卒）



祝

名誉教授称号授与 野田 慶人 先生

放送学科 昭和49年度・1974年度卒

## 北の大地からのメッセージ

野田慶人先生は昭和25年鹿児島県生まれ、ラ・サール高等学校を経て日本大学芸術学部放送学科をご卒業されました。その後昭和53年から日本大学芸術学部放送学科で副手、助手、専任講師、助教授、平成10年から教授に就任されました。平成17年からは日本大学芸術学部長に選出され、平成29年まで4期12年にわたり日本大学芸術学部長及び日本大学大学院芸術学研究科長を務めました。

芸術学部のみならず、日本大学理事、評議員、平成19年から21年と23年から24年の2度にわたり日本大学副総長に任命され日本大学本部でも活躍されました。

芸術学部長時代には「日藝賞」の創設や、所沢校舎と江古田校舎での授業を再び江古田校舎に一本化させる「通年化」事業、「芸術教養課程」の創設、TYOグループや東北新社グループなどとの「冠講座」の創設など、数多くの功績を残されました。

一般社団法人衛星放送協会理事、NPO法人放送批評懇談会理事、ギャラクシー賞CM部門選奨委員長、公益社団法人板橋区文化・国際交流財団理事など学外での重職も歴任されています。

主たる研究領域は放送広告。テレビCMの発想法や表現法の研究、広告主研究、日本のテレビCM史、諸外国のCMとの発想や表現の比較などが専門分野です。教えるのは苦手だけれど育てるのは自信があると、学生たちの自主性を伸ばす型破りな授業スタイルが評判でした。その薫陶を受けた数多くの野田門下生たちが広告業界をはじめ多方面で大いに活躍しています。

令和5年3月に日本大学大学院芸術学研究科を退官され、現在は奥さまのご実家のあった札幌に移り住んでいらしゃいます。

芸術学部長時代にはできるだけ各地の江古田会の皆さんに直接お話を伺いたいと、国内外の支部校友会総会に数多くご出席されました。此度の日本大学名誉教



授ご就任にあたり、校友会へひと言メッセージをいただきました。

「江古田会是他学部の校友会にはない和気あいあいさがあって、本当にすばらしい校友会でした！」

これからも北の大地での野田先生のご健勝をお祈りいたします。

星野裕（放送学科59年度・1984年度卒）

この度、野田慶人先生が日本大学名誉教授を授与されましたことに対して心からお祝いを申し上げます。野田先生が長きにわたって学部のためにご尽力されたことは言うまでもありませんが、特に2005年に学部長に就任されてから4期12年間は、学部のみならず日本大学の発展のために多大な貢献をされました。その一端を申し上げますと、江古田校舎の新校舎への建て替え事業、芸術教養課程の設立、日芸賞の創設、江古田通年化へ向けての基盤づくりなどが挙げられますが、まさに学部のために心血を注いでこられました。野田先生は、私の8才年上で、放送学科の教員では私のすぐ上の先生に当たるため、常に先生

の背中を見て学んできたように思います。大学の教員とはどうあるべきか。学生への指導や対応の仕方はどうすべきか。さらに野田先生の魅力は、その人間的な大きさにあります。豪快で懐の深さに、先生方だけでなく、多くの学生も惹かれたことと思います。私が今日まで教員を続けることができたのは、野田先生のお陰だと思っています。先生が日本大学名誉教授の称号を授与されたことは、本当に嬉しく、学科の教員として誇りに思います。野田慶人先生、本当におめでとうございます。

放送学科前主任 鈴木康弘（放送学科56年度・1981年度卒）



## 第18回 日藝賞

今年度第18回日藝賞にマルチアーティストのVaundyさんが選ばれました。

日藝賞は、著しく日藝の名声を高めその業績が社会に貢献し芸術を志す学生に夢を与える人物に贈られます。

選考対象は、中退者も含めかつて日藝に在籍していたことのある人すべて。活躍分野は一切問いません。

在校生、教職員、校友会役員などによる投票を基に決定します。

### Vaundy プロフィール

Vaundy(バウンディ)。マルチアーティスト 23歳。作詞、作曲、アレンジを全て自分でこなし、デザインや映像のディレクション、セルフプロデュースも手掛けるマルチアーティスト。2019年春頃からYouTubeに楽曲を投稿開始。

「東京フラッシュ」「不可幸力」など、耳に残るメロディーを持つ、幅広いジャンルの楽曲を発表すると、瞬く間にSNSで話題に。サブスク令和時代の象徴的な存在として注目を集めており、13曲が1億回再生を突破、日本男性ソロアーティスト1位の記録を打ち出している。

2024年春現在、YouTube・サブスクリプションのトータル再生数は、61億回以上を突破。リリース配信楽曲は長期にわたりチャートイン。CM、ドラマ、アニメなど各方面で、タイアップ曲に多数起用されている。

「地球儀 with Vaundy/Aimer」、「おもかげ」(milet

×Aimer×幾田りら)、「逆光」(Ado)など、フィーチャリングでの参加や楽曲提供及びプロデュースでその手腕を余すことなく発揮。菅田将暉「惑う糸」では、初のミュージックビデオの監督も務めた。その波は海を越え、LAUV からオファーを受けグローバルリミックスアルバムへの参加や、グローバルチームにて制作された「不可幸力(Global Dance Video)」が世界的なカルチャーサイト Nowness ビックアップされるなど、国内外での活動も積極的に行う。

開催したライブは全て即日完売。自身初となるアリーナ公演 日本武道館 2days 公演は 26000 人を動員。2023年春に開催された24公演から成る大規模全国ホールツアーは 65000 人、秋に開催した6大都市12公演のアリーナツアーは150,000人を動員した。2024年冬から2025年にかけて大規模全国アリーナツアーの開催も決定している。

2022 年 12 月 31 日、第 73 回 NHK 紅白歌合戦に初出演。

「怪獣の花唄」「おもかげ (produced by Vaundy)」(milet×Aimer×幾田りら×Vaundy)、2 曲をライブにて披露。

各サブスクリプションにて首位を取得するなどチャートアクション含めて大きな話題を集めた。

2023年11月には、「strobo」より約3年半ぶりとなる全35 曲入りの2nd アルバム「replica」をリリース。多くのストーリーミングヒット曲と新曲で構成されたCD2 枚組の大作となった。そして、2023年末に公開された「Billboard JAPAN Artist 100」では、CD パッケージおよびデジタルでの追い風を受け、第1 位を獲得した。また、アルバムを引っ提げたアリーナツアーは即日全公演完売。2024年秋からさらに大規模な全国アリーナツアーの開催も決まっている。

耳を捕らえ、一聴で癖になる天性の声と、破格の才能を感じさせるジャンルに囚われない幅広い楽曲センスで、ティーンを中心にファンダムを急速に拡大し、令和の音楽シーンを牽引している。

## 「私の写真人生」



小学6年生の時に、ある先生のお宅で写真の現像を見ました。茶電球が下がる暗室で、印画紙を現像液に入れると、像が浮かび上がりました。その衝撃的な一瞬が、60年も続くことになる写真人生の始まりとなりました。

中学では迷わず写真部に入り、顧問の先生からカメラアングルやフレーミングの大切さを教わり、写真への興味が強まりました。高校生の時に地元で大きな事故があり、いち早くかけつけて現場を写真に納めて新聞社に投稿したところ、翌日の全国版に掲載されてびっくりしました。写真は月間投稿写真コンクールでA賞B賞となり、写真の道に進む硬い決意となりました。

大学は迷わず日芸の写真学科です。戦後のベビーブーム最高峰の時で、北は北海道から南は九州まで写真を極める学生であふれていました。学科はさておき実技のトップを目指し、卒業制作に全力をつくしました。3年間、下北半島に通り、フィルム300本以上となり自分としては5人の枠の賞に入ると確信していましたが、結果は残念ながらもずれて非常にくやしい思いでした。

それから気を取り直してニコンサロンに応募して審査を通過し、ニコンサロンで最初の個展を開かせていただきました。「さいはてに生きる 下北半島」はたくさんの反響があり、カメラ雑誌や朝日新聞東北版の2週間シリーズなどに掲載されました。

大学では芸術研究所(現大学院)に残り助手を経て非常勤講師をさせていただき40年間、学生たちと過ごさせていただきました。定年となり故郷の青森に拠点を置いて「青森はいつも美しい」をテーマに撮影にとり組んでいます。大学時代に金丸重嶺先生や渡辺義雄先生をはじめ多くの先生方に写真の魂を教わりました。まだまだこれからも写真の道を極めていきたい毎日です。

和田光弘(写真学科昭和44年度卒)

中西進先生提案という令和が始まり6年が経つ。故安倍元首相はこの年号について「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」というような談話を出した。ところが、令和が始まりほどなく、コロナによるパンデミックで心を寄せ合うことができない日々が続いたのは、なんとも皮肉なことだった。こういう未知の状況を乗り切るには「教養」が物を言うわけだが、「役に立つ」ものだけを求めて続けた教育施策とデジタル技術の急速な発展で、我々の教養はやせ細ってしまっていた。

その一方で、新型コロナウイルス蔓延をスペイン風邪やペストの例を引き合いに出す人がいた。ところが、そこからもう一歩進んで、ルネサンスにまで論を進めた人は少ない。14世紀ペスト流行により、人々の価値観や人生観に変化が起こった。そしてイタリアでルネサンスが興り、様々な芸術活動の華が開いた。そういう歴史を見ると、ポストコロナの時代こそ我が芸術学部の出番である。

と、こんなことを「日本のチベット」と言われた岩手の田舎で、独りだらだ酒を飲んで「白頭搔けば更に短く」なった私は考えていた。しかし、朋あり遠方より来たる日が復活した。行動制限緩和に伴い、久しぶりに岩手江古田会を対面で実施できたのである。皆さんよくぞ無事で久闊を叙せば、心はあの頃の江古田にひとつ飛び。

田上校友会長をお迎えし、宮城江古田会の桑折会長、日大校友会高橋岩手支部長にもご臨席いただき、令和5年10月14日盛岡市にて岩手江古田会総会・懇親会を開催した。今回の目玉は会員の生存確認以外に、現役の学生を迎えたこと。大学院に通う小沢さんが、わざわざ東京から参加してくれた。その効果は絶大で、若い人が一人はいるだけで「年寄り」がいかに元気になるかの実証実験のようだった。

我が岩手江古田会存続の鍵は若い人が握っていると確信し、今年度の活動を考えている。

会長・鈴木勝博



## 秋田江古田会

コロナ禍になり活動が止まっている中に藤澤朗現会長が病気のため急逝され、そのまま現在も冬眠が続いております。コロナも落ち着きだしましたので、そろそろ活動を再開しようと思いますが、活動再開までもう少々お待ちください。

### <押しグルメ>

\*昨年12月にきりたんぼ鍋セットをサイトで見つけ、取り寄せて秋田の郷土料理「きりたんぼ鍋」を作ってみました。説明書にセリは根っこも食べると書いてあり、よく洗って鍋に入れて恐る恐る食べましたが、セリの根っこが美味しいのです！そしてきりたんぼが美味しい！近所のスーパーで買ってきたものとは違います。

きりたんぼ鍋は、大館・鹿角地方が発祥の地で、炭焼きや伐採のために山籠もりをした人々が残りめしをつぶして棒に刺して焼いて食べたものを鳥鍋に入れたことが始まりと伝えられているそうです。頂いた北秋田とも合い、お酒が進みました。まさか写真を掲載するとは思ってもいなくて、もっと写真映えのよい盛り付けにすればよかった。

\*もう一つのグルメは、秋田県在住の管理栄養士の方に最近頂いたマーマレードです。

瓶の中一杯に丸のままスライスしたオレンジが入っていたので、開けてびっくりしました。国産のネーブルオレンジを使用していて、添加物も入っておらず、製造も秋田県内です。

ジントニックに添えても美味しい♪

(会報誌委員 T)



## 新潟江古田会

今年度は総会が開けませんでした。なかなか同窓の方に連絡が繋がらず、会員は少人数です。

是非、新潟県ご出身または新潟県にゆかりのある卒業生、新潟県周辺の地区にお住まいの卒業生、新潟県が大好きな卒業生のご入会を募集しております。

### <押しグルメ>

新潟県も他県に負けない美味しいもので溢れています。メジャーではないかもしれませんが、個人的に美味しくて好きなものをご紹介します。

\*十数年前に村上市に行ったおり、笹川流れ「玉藻塩」という塩に出会いました。おにぎりにも天ぷらに美味しくて、度々取り寄せています。

新潟市に住む親戚(孫のひいおじいちゃん)が作っているコシヒカリを土鍋で炊き、氷水に手の平を浸し、炊き立て熱々のご飯を手の平を真っ赤にしながら握り、玉藻塩を多めに付けて外はしっかり中はふわっと握り、少し冷めてから食べるのは私には最高のご馳走です。

\*今年の年頭にお節と一緒にいただいたお酒は、新潟市西区木山にある高野酒造の「越路吹雪」の大吟醸干支ラベル「辰」。名前も良いけれど味も良い！口に含むと濃厚な味わいで、お節と合いました。

(会報誌委員 T)



江古田支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)

## 歴史ある街を歩こう！

長野江古田会では、令和5年度の総会に併せて「街歩き」を初開催しました。親睦を深めながら、少し変わった趣向で総会を開催し、より多くの校友の皆様にご参加いただけたらという、江守会長の発案によるものです。

今回の街歩きは、2016年のNHK大河ドラマ「真田丸」でも知られる真田家のお膝元「長野市 松代」。江戸時代の城下町の建物も保存されていてとても趣深い街並みです。

長野市の有形文化財である「寺町商家」での会議＆ランチ会のあと、松代文武学校と真田邸を見学、松代城跡方面へと散策しました。



次回も、この街歩きのような企画を継続させ、長野江古田会の特徴ある活動に育てていけたらと考えています。校友会からは、三原副会長にご参加いただきました。ありがとうございました。

(事務局 松沢)

■第6回愛知江古田会総会が、令和5年10月14日（土）名古屋市の名古屋観光ホテルで開かれ、来賓3名、会員23名の計26名が参加しました。総会は、例年通り滞りなく終了し、その後、田中光子校友会副会長、熊本江古田会より川村晃生事務局長、岡野万里江氏が御入場。祝辞やお土産を頂き、懇親会がスタートしました。

■老舗ホテルの大宴会場で、例年恒例のビュッフェ形式にて再会や懐かしい顔触れが揃い、会食をしながら、各会員の近況報告や新会員の挨拶を聞き、楽しいひと時を過ごしました。

■今回は、黒川勝寛先輩（写真S46年度卒）、まさきせい先輩（映画S62年度卒）、杉山友子先輩（映画S62年度卒）、石黒圭一郎氏（演劇H15年度卒）が初参加し、より一層若手&女性メンバーも増え続けています。愛知江古田会の特徴である「平成」と「女性」二つのセイが順調に拡大し、「昭和」「平成」「令和」卒の日芸生が世代を超えて江古田の街や日芸の今と昔について歓談し、懐かしい母校の思い出話に花が咲き、時を忘れてしまう程でした。愛知江古田会は、益々の発展を目指してメンバーを募集しております。東海地区在住の卒業生や東海地区に所縁のあるOB・OGの皆様の御参加をお待ち申し上げております。お問い合わせは、藤田支部長（090-1783-5103）まで。

愛知江古田会副支部長 三富 由杏子（演劇H15年度卒）



江古田支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。（TEL.03-3554-5363）

昭和60年度、放送学科卒業の和田昌弘です。

宮崎の田舎から東京に出てきて初めての一人暮らしが始まり、最初に住んだのが上板橋のアパート。玄関を入ると小さな台所がある6畳一間。トイレは共同で、当然風呂はなく、毎晩銭湯に出かけて行ったものです。門限までありました。まさにフォークソングの歌詞に出てくるような雰囲気のアパートでした。しかし同級生には、風呂付のアパートに住んでいる者もいて、羨ましく思ったのを覚えています。そこで1年もたたずに引っ越しを決断。同じく桜台の安アパートに住んでいた同級生のニックネーム「阪神」こと大山功君と共にマンションに引っ越すことに。

学校から江古田銀座を抜け、環7通りへ歩くこと10分。通りに面して建つのが、引っ越し先、羽沢の「互恵マンション」でした。

6畳2間と広いキッチン、風呂付 洗濯機も購入。家賃は7万円くらいだったと思います。しかし、家賃や光熱費は2人で折半、銭湯やコインランドリーに行く必要もなくなり、学校まで徒歩で行けるので交通費も節約できました。引っ越しは賢い判断だったと思います。

このマンションで卒後までの3年以上を過ごしたわけですが、私達だけでなく、多くの仲間たちがこのマンションでたくさんの思い出を作ることになりました。

学校に近いこともあり、ある時は飲み会で酔っ払った友達の宿泊場所として、ある時はイベントの打ち合わせの場所として、バイト帰りの仲間たちが立ち寄っては日々の出来事を語り合ったこともよくありました。「今夜は互恵に集合ね」と、住人の私の許可なく誰かが集合場を設定することも（笑）。いつの間にか「ひんだれ日記」などという誰でも書き込める日記もでき上がり、互恵マンションを訪れる仲間たちは、一言書き残していったものでした。「ひんだれ日記」の語源は宮崎の方言「ひんだれた」(疲れた) にちなんだものです。

江古田の思い出の場所と言えば、居酒屋むらさき、江古田コンパ、松屋…など懐かしい名前が次から次に出てきますが、当時の私達にとって、その中に「互恵マンション」があるのは間違いありません。



2023年11月3～5日に開催された『ただいま～台湾の素顔』展が成功裡に完了したことをこの場を借りてご報告するとともに、深く御礼申し上げます。

台湾江古田会林舜龍前会長と彫刻学科の鞍掛教授の会話をきっかけに、海外の卒業生が母校に戻り作品展示をしようという話になりました。初の海外の卒業生グループの展覧会であったかと思えます。



本展覧会の話は2019年まで遡り、2020年2月18日に台湾にて委員会を成立しましたが、コロナにより全てが一旦停止しました。2023年3月20日、コロナ収束をきっかけに再開の声が上がり、当初準備期間が短期のため困難かとも思われましたが、出品者や作品等を素早く募集し、今回11月の学園祭に何とか間に合わせることができました。

大学からの多大なるサポートのお蔭もあり、A&Dギャラリーにて開催された台湾の江古田キャンパス卒業生による展覧会は大盛況となりました。出品者たちが卒業してから10年、20年、30年、40年の歳月が既に流れていますが、本活動は各人の人生における記念すべき重要な思い出となりました。



今回の出品作品は、彫刻、油絵、写真、建築、包装デザイン、イラストなど芸術のさまざまな分野を広くカバーしつつも、「台湾の文化と心」を共通テーマとしています。ポスターはイラストレーターの陳禹達先輩

に私達が作品制作に打ち込む姿を元に作成して頂きました。出品者は彫刻の林舜龍と陳禹達、油絵の吳淑明、包装デザインの林美吟、建築の簡明輝と方新樵、イラストの許榮、写真の簡永彬、高志尊、范如苑および陳宗蔚の計11名、今回出品できなかった会員からも、何度もネット会議に参加しアドバイスを提供してもらい、台湾江古田会の団結のパワーを存分に発揮できました。

また会期中には学校の先生方、留学時に知り合った同級生や友人たち、そして現役の留学生など多くの方々に高覧頂くと同時に、皆さんと深い絆を再度確認することができました。多くの来賓の方々にも感謝の気持ちで一杯です。台湾江古田会の林舜龍前会長が多忙の折に大きな壁を乗り越え、新たな挑戦に打ち勝つことができました。大学にて培った「初心」を忘れず、これからも新たなチャレンジに向かっていきたいと思えます。

去る2023年12月16日に台北のリビエラホテルにて忘年会を行いました。テレビ電話を通じて藝術学部川上部長、田上会長、原直久教授、高橋則英教授、鞍掛純一教授よりご挨拶を頂きました。深く感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

YouTubeにて「2023年ただいま～台湾の素顔」展のスナップ・ショットをご覧頂ければ幸いです。台湾江古田会会長 陳宗蔚 (写真学科 平成17年卒)



## 野口哲司（写真）

「おかえり」心の故郷は緩やかに広がっていきました。

入学時から新型コロナウイルスに見舞われ、人との繋がりが希薄になった日々。生きる手応えを探し求め、約3年間をかけて日本最西端・与那国島での作品制作に励みました。

最初は人との距離感をどこまで縮めていくべきなのか、戸惑いの連続でした。それでも何度も通い、温かい言葉も厳しい言葉も真摯に受け止め、目の前の人に向き合い続けました。気が付けば、牧場で馬のお世話をしていたり、子供たちと川の字で寝ていたり。どんな場所でも、真っ直ぐに向き合い、寄り添うことの大切さを学びました。また、学生生活では友人たちと語らう日々が続きました。自らが何を考え、どうありたいのか。お互いに話し聴くことで刺激あったこの学舎は、かけがえのない心の故郷となりました。

春からは新聞社に入社します。「ただいま」と言いたくなる場所を糧に、成長に寄り添い続ける写真を撮影していきたいと思っています。



## 村田凜（美術）

私は日芸に在学中、長い目で見た場合では、ある程度は有意義な時間を過ごせていたと考えています。私はこの4年間日芸にて、専門的な分野に精通している先生方や、中高生の頃には出会えなかった話の通じるかなりハイレードな友達などの交流だったり、様々なジャンルの興味深い授業や、観賞、実践などによってもたらされる刺激的な芸術体験だったりなど、色々なことを通して得るものは多かったです。

しかし、これらの何よりも私にとって意味をなしたのは「考える時間」だったと考えています。常になにかをやらされていた小学校、中学校、高校とは違い、大義名分もなくなることは自分で決めなければ何もやらずに終わるというのが、大学生としての私が置かれた状況でした。学生生活全体を通して社会と宇宙の関係性を垣間見ました。社会から宇宙へと解き放たれて初めて、自分の姿や目的が見えるのだと気付いた4年間でした。



## 福田楓恋（映画）

小学校の頃、運動会の感想文がプリントで配布され、みんなの目に触れました。面白かった！と周りの友だちから言われ、文章を書くことがすごく好きになりました。

いつからか、文章が映像になったらもっと面白いかも！と思い脚本家を目指し、大学に入学しました。大学では、どのように学べば私のフワフワした夢が実現できるか、何を糧にして進んで行けばいいのかわかっていたような気がします。

大学生活のほとんどがコロナ禍ということもあり、サークルにも入ってなかったので友人がそんなに多くできませんでしたが、それでも同じ趣味を持っていたり、目指すものが同じだったりする友人が、数少なくはありますが作れました。友人の存在が、楽しさや悔しさを生み、やる気の原動力になっています。

日芸で出会えた友人や先生、学んだこと、経験はこれからの私にとって、とても重要なものです。この経験を大切に日々精進していきます。



## 鈴木和佳奈（音楽）

周りの個性の強さに圧倒され、自分の強みは何もないのではないかと、また入る大学を間違えてしまったのか、と戸惑いを感じていた入学当初から4年。コロナ禍の全面オンライン授業から始まった私たちの大学生活ですが、それでも自分のやりたいことに多くの時間を割けるのは今しかない！と興味の赴くままに授業を履修し、新たなことにも沢山挑戦することが出来ました。入学前の自分と今を比べると、様々な価値観や専門性を持つ友人や先生方と出会えたことで、考え方が柔軟になったり音楽にも素直に向き合えるようになったりと良い意味でとても変わったなと実感しています。そう思えるのも、学科を越えた幅広い人脈とユニークさに溢れる日芸で過ごすことが出来たからだだと思います。

今春からは小学生の時から憧れていた、夢の国で感動を届けるショー運営の裏方として働きます。日芸での経験を糧に、新たな社会人生活も自分らしく精進していきたいと思っています。



## 宮田彬（文芸）



作家をやっている最近強く思うのは、「生に加担すること」が求められる、ということ。ことエンタメでは顕著で、たとえば案件でSF短編を書くときも、企業イメージのためにバッドエンドは避けて欲しいとか言われます。この誌面もそうですよね。大学生活楽しかったです！ 的な、前向きな言葉が期待されている。

そういう出来レースが嫌いでした。

でも最近になって思うんです。そもそも経済は前向きな人が回っている。そして経済に加担しないと、専門作家はやっていけない。だから心の深いところに抱える昏さを作品にしたいのなら、表面をあくまで前向きな言葉で覆わなきゃいけない。

それが大人になるってことなんかな〜、とか思います。

大学に入って、良き師に会え、デビューもし、先輩ヅラもでき、楽しかったです。しかしこれからの方がより楽しいと思うんで、生存バイアスを更新していきたいと思います。

『人間六度』という名前で活動しております。

今度、書店で探してみてください。

## 渡邊康太（演劇）



私と日芸との出会いは運命的なものでした。受験生の頃、理系の道を志していた私は、勉強漬けの日々に気を病んでしまい、一時は大学進学すら諦めかけていました。進路に悩む中で、国内でも数少ない舞台照明を学ぶことができることに魅力を感じて選んだのが日芸でした。まさに人生を変える選択と言えます。

八つの異なる学科が一つの校舎で学ぶという毎日は刺激的で、ある日、映画学科の先輩に声をかけられて参加した演劇サークルの公演では、廃墟を借りて半野外の劇場としてしまうなど、演劇学科だけではできないような自由な発想に驚かされました。

この春からは、演劇学科の助手として新たに日芸での生活をスタートさせます。在学中にお世話になった先生方や助手の先輩方の姿を見習って、精一杯努力していく所存です。今までの学びを活かして、次世代の学生たちと共に学びを深めていきたいと思っています。

## 山本実奈（放送）



幼少期からテレビが大好きだった私は、いつからかテレビに携わる仕事をしたいと思うようになりました。そんなこんなで入った日芸は、1年目からコロナでまともに通っていません。ですが実習だけは対面だったため、音響技術の友人たちと週1の楽しい授業に参加することができました。

全く知らない音響の世界。覚えることも調べることも大量にありましたが、友人たちと助け合いながらなんとか乗り越えてきました。そのうち、先生からは「賑やかで質問の多いクラスだ」と言われ、先生のことを下の名前と呼ぶほど仲良くなっていました。コロナという制限された中で、友人たちと全力で駆け抜けた4年間は忘れられない思い出です。同時に、コロナだからと諦めず、その中でいくらかでも成長できることを知りました。

4月からは夢だったテレビ局で働きます。周りの仲間たちと共に成長すること、そしてできないと思う前にまずやってみることをモットーに頑張ります。

## 出田真子（デザイン）



幼い頃から何かを作ることが大好きで、学校から帰ると絵を描いたり工作をしたり…という子供だったのですが、こんなにもデザインや芸術について考え、作り続けることができる4年間を過ごすことができて幸せだったな、と思います。

学生の本分は学業と聞きますが、私は日芸という環境だったからこそ、それを申し分なく達成できたと感じています。コロナ禍で学校に満足に通えなかった約2年間も、本来なら通学に充てる時間を課題の制作に使うことができましたし、デザインはもちろん、デザイン以外にも芸術全般に興味がある私は、学びたいことが常に尽きなかったのです。正直今でもまだ、受けたい授業がたくさんあります。

入学前に想像していたような4年間とは大きく変わってしまいましたが、それでもこうして4年間やりきった、と思えるような大学生活が送れました。日芸生として学んだことを、仕事でも存分に生かしていきたいです。

# この目で観ることの大切さ

美術学科主任  
福島 唯史

2017(平成29)年9月に美術学科の主任に任命されてから6年半がたちました。その間、いろいろなことがありましたが、やはり「平成」の始まりとともにスタートした所沢キャンパスが、奇しくも「平成」の終わりとともにその役目を終え、江古田新キャンパスに一元化されたこと、そして2020(令和2)年度から実質3年間続いたコロナ禍によって、授業運営上さまざまな制約を強いられたこと、この二つの事柄がとくに印象に残ります。

私は1989(平成元)年に日藝美術学科の絵画コース絵画専攻を旧江古田校舎にて卒業し、同年4月から当時「学科補助員」と呼ばれる立場で美術学科の授業補助をしていました。その年度から1・2年次は所沢、3・4年次は江古田と分かれて授業を行うようになり、私の勤務地は学生時代に4年間を過ごした江古田ではなく、竣工したばかりの所沢キャンパスの方でした。その後、私はこの日藝の専任教員となりますが、江古田新校舎の建設が本格的になると、美術学科は一時期、1～4年次までの全学年が所沢キャンパスに仮移転しておりましたので、なおさらに所沢キャンパスは私にとって親近感のある場所となり、私の記憶に深く刻まれていきました。

2020(令和2)年度は、これまでに経験したことのない「オンライン授業」というものの方法を模索することから始まりました。それは、絵画実技の演習科目を担当する私にとって実に難しい問題でした。

現代の学生の皆さんは課題制作の指導のなかで、ある画家の名前や作品を例に出すと、すぐにその場で検索し、スマホの小さ



な画面であつという間に確認します。大変便利な世の中にはなりましたが、美術を志す学生にとって、実際の作品を目にすることなく、なんとなくわかったように思えてしまうことは実は大きなマイナスです。そのうえコロナ禍においては、国内のみならず世界中で美術館やギャラリーなどに足を運ぶことさえ儘ならなくなっていました。

授業課題の講評会も、実物の作品ではなく、やはりオンラインにて作品の画像のみを見せてもらいながら行わざるを得ない状況がしばらく続きました。油彩作品などを観る要素としては主に色彩、形体、マティエール(絵肌)、そしてそれらを総合的に含んだ絵画空間の解釈などがあるのですが、モニター画面を通じた色が実作品とは異なっていたり、画像からではそのマティエールまでは伝わりづらかったりと、学生たちと

教員は互いに想像力を働かせながらの講評会でもありました。

私は昨年11月に開催した大きな個展を終えた後、年明け1月中旬までフランス、パリの美術館において開催中だった(私が最も尊敬する画家である)ニコラ・ド・スタールの大回顧展のことがずっと気になっておりました。また主にヨーロッパの風景からインスピレーションを得て油彩作品を描いている私にとって、毎年のように訪れていたスケッチ取材がコロナ禍前の2019年夏から途切れていたこともあり、この年末年始はおおよそ4年ぶりのパリへ飛びました。

「ニコラ・ド・スタール展」は私の期待を大きく超えるもので、まさに圧巻でありました。当展のことを書き始めたら、この誌面にはとてもおさまりませんが、ここで私が申し上げたいことは唯一、実際の作品をこの目で観たときの感動こそが、いかに貴重な体験であるかということです。時代が移り変わればなおのこと、その大切さはより増していくことでしょう。美術学科の学生たちには、これからもずっとこのことを伝え続けようと思っています。

## 【今後の主な展覧会出品予定等お知らせ】

- ・(株)守谷商會のデジタルサイネージ広告に作品が採用されています。東京駅八重洲北口、新大塚駅新幹線改札内、名古屋駅新幹線口にて、今年いっぱい計24点の油彩作品を使った映像が映し出されます。(6分に1回、1分間の映像が流れます)
- ※(株)守谷商會は多くの優秀な学生に奨学金を給付いただいている(一財)守谷育英会の母体となる企業です。
- ・奏彩Ⅲ—7つの視点—  
5月8日～5月13日 横浜高島屋 美術画廊
- ・第61回太陽展  
5月22日～6月5日 東京銀座、日動画廊本店
- ・rotondo  
11月27日～12月2日 東京、日本橋高島屋S.C. 美術画廊

# 「放送」の未来を信じて！

放送学科主任  
安部 裕

2023年9月に放送学科の主任を拝命しました安部裕と申します。前任の鈴木康弘教授（2024年4月より特任教授）は15年もの長きに渡って学科主任を務められ、学科の運営と発展に力を尽くされました。その後任、というのは大変な重責で、自分に務まるのか試行錯誤をしながら日々学生や教職員みなさんと向き合っています。

私は昭和62年に三重県から上京し放送学科に入学しました。所沢校舎ができる前の入学で、私の一学年下までが4年間江古田校舎で過ごす最後の世代でした。

学生時代の私は実は日藝が好きではありませんでした。放送作家になる事を夢見て入学し、脚本を学びましたが自身の才能の無さに気付き、学科から足が遠のくようになりました。中学・高校と卓球部だったため、運動部連盟の卓球部に入ったものの、本格的に卓球をする部ではなかったもので、こちらも中途半端に終わってしまいました。次第に大学からも足が遠のき、アルバイトに最も力を入れる大学生活でした。同級生は私が留年か中退していると思っていたらしく、卒業式の日に「何でいるの？」と言われたことは忘れられません。

そんな中、唯一好きだった授業が技術実習でした。「高い学費を払っているのだから、せめて高価な機材を触ろう」という理由で取った技術実習がなぜか性に合いました。実習中に、同級生に「カメラ上手いね」と言われたことがキッカケで、入学時にはまったく興味がなかったテレビカメラマンを目指すことになりました。運良くキー局系列の制作会社に入社することができ、テレビカメラマンとなること



ができました。カメラマンになってからは、情報・報道番組、ドキュメンタリー番組、バラエティ番組など様々な分野のテレビ番組を撮影しました。23年現場で過ごした後、制作会社を退社し2014年4月から放送学科の教員として映像技術を教えています。

大学時代好きではなかった日藝を好きになったのはテレビ業界に入ってからです。業界内には思った以上に日藝出身者が多く「日藝卒」というだけで上手く仕事が運ぶこともありました。また、日藝に入学していなければテレビカメラマン、という人生には巡り合わなかったのも、卒業してからは本当に日藝に入って良かった、と心底思うようになりました。

テレビ放送の視聴率は年々下がり続け、若い世代はテレビさへ持っておらず

YouTubeしか見ない、という人たちも増えています。しかしながら国からの免許事業でもある「放送」がなくなる事は当面ないでしょう。同じく廃れた、と言われたラジオはradikoなどのアプリを通してスマートフォンで聴けるようになってから若年層の聴取者は増えています。テレビ番組も動画配信サービスを使ってスマートフォンで見ている大学生は多く、これまでの「放送」の常識を超えた視聴方法が当たり前となってきています。

人々の視聴方法が変わっても「放送」で流す番組を作る、というモノ作りの根本的なことは変わらないと思います。そのモノ作りの根本的な部分の学びを放送学科では大切にしていきたい、と考えています。

近年の放送学科は「受かるまですべての受験方式を受ける」というコアな受験生が増えています。オープンキャンパスでも「どうしても放送学科に入りたい」という強い気持ちを持った高校生に多く出会います。そんな人たちを一人でも多く放送業界に送り出していきたいと思っています。この3月の卒業生は、NHKを含む在京キー局に6名が就職しました。また地方局にも7名が就職しました。この他にも「放送」を支える制作会社に数十名が就職するなど、「放送」の道に進む学生は数多くいます。この卒業生が力を発揮してくれる事で「放送」の未来はきっと明るくなるでしょう。放送学科卒業生のみなさまが新たな「放送」の未来を創ってくれると信じております。そして我々教職員は、学生が新たな道を創造できるような環境作りを進めていきたいと思っています。放送学科をどうぞよろしく願っています。



## 写真学科

### ■原直久先生が名誉教授称号を授与

写真学科で長く教鞭を執られ、写真学科主任や芸術学部次長を務められた**原直久先生**が12月に日本大学より名誉教授の称号を授与されました。おめでとうございます。

詳細は本号3ページをご覧ください。

### ■高橋則英先生が令和5年度をもって学部をご定年となられました。長い間、ありがとうございました。

#### ■特別講義開催

10月24日に客員教授の**宮嶋茂樹氏**（S58年度卒）による講義「報道写真家宮嶋茂樹が語るウクライナ2」というタイトルで実際に何回もウクライナへ取材へ赴いた経験から、その現状を語っていただきました。



宮嶋茂樹先生

11月22日に写真家の**井津建郎氏**による講義「なぜ オリジナルプリント」というタイトルで、直にオリジナルプリントを見せながらプリントを大事にする思いを語っていただきました。



井津建郎先生

■日芸祭での写真学科の展示で、写真学科奨励賞を2年生のユニットで桂木あかりさんと小泉志穂さんが「Miniature Garden」、3年生の許方于さんが「雲をつかむ」、4年生の上園了慶さんが「AWE」で受賞されました。また写真学科卒業生の会・新写真派協会から新写真派協会賞を2年生の大野晴山さんが「Capture the moment 2023」で受賞されました。

■APA AWARD2024で4年生の大久保晃生さんが入選されました。

#### ■令和5年度卒業制作受賞者

<芸術学部長賞>横浪響「Beyond the Faces」伊藤慶人「霊峰富嶽」新宮己美「邂逅のみかん」中山優瞳「彼女は私」全修賢「THE VISIBLE UNIVERSE: NER SUPERCLUSTER」  
<芸術学部奨励賞>阿竹花菜女「おなじ空の下」  
<金丸重嶺賞>徐捷「小さな恋の讃歌」高城菜都未「sister」岸本凜「Reminiscence」齋藤響「パンとジャム」

#### ■令和5年度卒展受賞者

<写真学科奨励賞>熊万葉「威信戦略」  
<写真学科奨励賞（WEB）>芹澤みなほ「ほ ど け」鎌田三四郎「影を遺す」

<新写真派協会賞>新藤龍之介「ONE」

■写真学科の直近情報は下記をご覧ください



公式ホームページ



公式X (旧Twitter)



## 映画学科

### ■令和5年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第51回渡辺俊平記念賞（映像表現・理論）西 玲央菜

☆第26回答見有弘賞（映像表現・理論）矢川紗和子

☆第17回大竹徹賞（映像表現・理論）福田楓恋

☆第18回八木信忠賞（録音）中島楓乃

☆第47回映画学科奨励賞（映像表現・理論）石井瑞樹、栗原章、草刈邑依、（監督）古谷大地、（撮影）中山リセ、（録音）岩本茉夕、（演技）松林 凜

☆第33回映画学科選奨（映像表現・理論）毛利圭太、本田江里、三澤元椰、（監督）押場 渚、（撮影）加藤彩蒼、（録音）原田真乃介、（演技）高沖彩佳

☆第31回映画学科特別賞（伊藤忠ケーブルシステム株式会社提供）（映像表現・理論）キムヒョンビ、植芽芽久、根岸千尋、（監督）村主匠人、（撮影）渡辺一貫、（録音）森田 樹、（演技）松本和佳

☆第21回アートライティング賞（東芝ライテック株式会社提供）（撮影）柳田侑子〔照明にたいして〕

☆第23回映画学科コダック賞（コダックジャパン提供）（監督）眞鍋茉優子、奈良原幸拓、（撮影）小林竜雄、内藤耀貴、（録音）鈴木咲紀子、荒木美海、（演技）東ひかり、千葉真子

☆第9回三善賞〔(株)三善提供〕（演技）鞠子莉緒

☆第19回江戸クリエート賞〔(株)江戸クリエート提供〕（監督）緑川可弥子、安部すみれ

### ■令和5年度をもちまして、次の先生が映画学科を退職されます。映画学科発展にご尽力いただきありがとうございました。（敬称略）

・学部：奥村賢、高橋栄樹、津堅信之、花柳貴柏、藤石修、横田正夫

### ■令和6年度より、次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。（敬称略）

・学部：原口正宏（映画特講Ⅳ）、笠松則通（撮影研究Ⅰ他）、花柳貴伊那（日舞Ⅰ～Ⅳ）



## 美術学科

■【Idemitsu Art Award 展 2023】 出光興産株式会社主催のコンクール展に、絵画専攻4年生の阿久根留聖さんが入選しました。■【MOLESKINE×日本大学芸術学部 モレスキンコンペ】 版画専攻3年生の小林恭子さん、絵画専攻3年生の高平悠花さんが優秀賞を受賞しました。また、版画専攻3年生の石塚万里奈さんが奨励賞、博士後期課程の東尾文華さんが佳作を受賞しました。■【FACE展2024】 SOMPO美術館主催のコンクール展に、絵画専攻4年生の阿久根留聖さんが入選しました。■【美術新人賞デビュー2024】 月刊美術主催のコンクール展に、絵画専攻4年生の阿久根留聖さん、松原怜之さんが入選しました。また、当コンクールでは絵画専攻非常勤講師の塩谷亮講師が審査員をされています。■【中札内美術村企画公募展2023年「二十歳の輪郭」】 株式会社六花亭主催のコンクール展に、絵画専攻2年生の星日紗子さん、中島颯希さんが入賞、竹島洗雅さんが名村大成堂賞を受賞しました。■【第48回全国大学版画展 2023年12月2日（土）～24日（日）】 会場：サントミュージゼ 上田市立美術館 大学院2年 成田華蓮さん、大学院1年 青柳有華さんが優秀賞を受賞しました。■【日芸版画卒業・修了制作展】 2024年1月29日（月）～2月3日（土）会場：ギャラリー川船 絵画コース版画専攻の卒業制作展を開催しました。

### ■【美術学科有志の学生が江古田浅間神社例大祭に参加】

2023年9月10日 江古田浅間神社例大祭が行われ、日藝の学生が旭丘2丁目町会と連携し、初めて浅間神社例大祭に参加しました。2年生から大学院生、留学生まで、幅広い学年の学生が参加し、神輿を担ぎました。コロナ禍で中止されていた期間も含め、地域の方々との交流を行い、留学生にとっては日本文化に触れる体験にもなりました。神社を中心とした旭丘町を回することで、地域の小学生、スポーツ少年団、商店街などとのつながり造ることができ、継続して行っていきたいと思います。学生がみにつける、手ぬぐいも校友会から進呈のご協力いただき本当にありがとうございました。



## 音楽学科

■令和5年度 卒業論文要旨発表会 オンデマンドにて卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。〈理論コース〉土山人和、芦名弥生〈音楽教育コース〉一瀬いずみ、新井菜実子、森なつみ〈情報音楽コース〉鈴木和佳奈、西出陽菜、毛塚琴音、山本梨生、内田俊哉

■令和5年度 卒業演奏会 2024年3月13日（水）北とぴあ・つつじホールに於いて、卒業演奏及び卒業作品が優秀であった学生の出演する卒業演奏会が開催されました。〈声楽コース〉美原明日香（ソプラノ）、和田奈々夏（ソプラノ）〈ピアノコース〉田中真優佳、河上千紘、石川日向〈弦管打楽コース〉岡村咲紀（オーボエ）、飯塚日陽里（クラリネット）、柴田華佳（フルート）、星野詩恩（サクソ）※下記の卒業生は本演奏会に選出されましたが、編成の都合により演奏いたしませんでした。〈作曲コース〉谷口美希也（作品発表）、伊達千隼（作品発表）

■令和5年度 大学院修了演奏会 2024年3月5日（火）ゆめりあホールに於いて、修了演奏、及び修士論文が優秀であった修了生の出演する修了演奏会、修士論文要旨発表会が開催されました。〈情報音楽分野〉山口優芳（論文要旨発表）、早川野々（論文要旨発表）、寺町正樹（論文要旨発表）〈作曲分野〉杉山凌（作品発表）〈声楽分野〉奥田也丸（バリトン）、岩田祐佳（ソプラノ）、岡本唯子（ソプラノ）、橋口美玖（ソプラノ）〈器楽分野〉増山美咲希（ピアノ）、平林未海（ピアノ）

■ヤマハ管楽器新人演奏会 2024年6月19日～21日銀座ヤマハホール

飯塚日陽里（クラリネット部門）、岡村咲紀（木管楽器部門）、湯澤サスケ（金管楽器部門）

■退任新任のお知らせ 音楽学科の発展にご尽力された声楽コース齊田正子先生、ピアノコース田代幸弘先生が3月31日をもって専任教員を御退任されました。本当にお疲れ様でした。田代幸弘先生には今後も学部及び大学院の授業をご担当いただきます。4月1日からは新たな専任教員に上村さや香先生が加わります。

■令和5年度で退職なさった非常勤の先生は次の通りです。ありがとうございました。白木麻弥、川本統脩、小島好弘、小林厚子、徳田敏子、村津瑠紀（敬称略）

■今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。海瀬京子、後藤葵、谷原めぐみ、長谷川貴大、林美智子、星野朋昭、南田勝也、柳橋祐子、若田部誠（敬称略）



## 文芸学科

### ■佐佐木陸さんの作品が第60回文藝賞にて優秀作に

文芸学科卒の佐佐木陸さんの作品「解答者は走ってください」が、第60回文藝賞にて優秀作に選出されました。この世界は破壊すべきである、○か×か？ 過去の記憶がない怜王鳴門にある日届いた「きみの物語」。読者を挑発する究極のマルチバース小説。作品と受賞記念インタビューは、『文藝 2023年冬季号』に掲載されています。単行本は2023年11月22日 河出書房新社より発刊されました。

### ■吉田恵里香さん脚本のNHK連続テレビ小説『虎に翼』

文芸学科卒の吉田恵里香さんが、2024年度前期放映のNHK連続テレビ小説『虎に翼』の脚本を担当されています。日本史上初めて法曹の世界に飛び込んだ、一人の女性の実話に基づくオリジナルストーリー。困難な時代に立ち向かい、道なき道を切り開いてきた法曹たちの情熱あふれる姿を描きます。公式サイトはこちら (<https://www.nhk.jp/p/toranitsubasa/>)

### ■ロケット商会さんの『勇者刑に処す』アニメ化正式決定

文芸学科卒、ロケット商会さんの小説『勇者刑に処す 懲罰勇者9004隊刑務記録』のTVアニメ化が正式決定し、公式サイトがオープンしました。(<https://yushakei-pj.com>) あわせて、ティザーPVが披露されています。『勇者刑に処す 懲罰勇者9004隊刑務記録』は、書籍版が現在6巻まで電撃の新文芸から刊行され、コミカライズ版も1巻が発売中です。

### ■『連句年鑑』に昨年度の浅沼ゼミⅣの連句が掲載されました。

日本連句協会が刊行する『連句年鑑』(令和五年版)に、令和4年度の浅沼ゼミⅣで巻いた連句が掲載されました。

### ■卒業生から新たな講師が加わります

2024年度から、文芸研究Ⅲゼミの担当講師に、文芸学科出身のお二人が加わります。

文学フリマ代表・望月倫彦先生と、作家／漫画原作／ゲームシナリオライターの波摘先生です。現場の空気感を伝える授業が期待されます。



## 演劇学科

### ■新任のお知らせ

4月1日より1名の専任教員が演劇学科に加わりました。

### 新任助教：劇作家・演出家 大池容子

うさぎストライプ主宰。2019年、『バーजन・ブルース』で平成30年度「北海道戯曲賞」大賞を受賞。2021年、NHK特集ドラマ『いないかもしれない』脚本で「Asian Academy Creative Award 2021」オリジナル脚本部門優秀賞を受賞。



#### 主要創作作品

##### 作・演出

- ・芸劇eyes番外編  
『God save the Queen』  
『メトロ』
- ・うさぎストライプ  
『バーजन・ブルース』

##### 脚本

- ・NHK特集ドラマ  
『いないかもしれない』
- ・NHK土曜ドラマ  
『エンディングカット』

### ■プラハ・カドリエンナーレ2023に演劇学科有志が参加

2023年6月、チェコ共和国の首都プラハで開催された「プラハ・カドリエンナーレ 2023」(通称PQ)に演劇学科2～4年生の有志学生21名が参加しました。PQは4年に1度催される国際的な舞台芸術/舞台美術の祭典で、世界各国から集まったアーティストやパフォーマー、舞台芸術を専攻する学生たちが、それぞれの展示空間で独自の演出を展開する刺激的な場です。

演劇学科生は学生展示部門として『贋作 百鬼夜行 HYAKKI-YAKO REMIX』を発表し、会場を練り歩くパフォーマンスを行い来場者との交流を楽しみました。





## 放 送 学 科

## ■箱根駅伝関連番組で学生が制作したラジオCMを放送！

今年4年ぶりに日本大学が東京箱根間往復大学駅伝競争（通称：箱根駅伝）に出場しました。文化放送系列で放送された箱根駅伝中継関連番組で、日本大学のラジオCMが4本放送され、そのCMを放送学科の学生が制作しました。

星野裕教授、茅原良平教授の指導の元、企画と原稿作成は放送学科の学生、出演者も全員が放送学科の学生を中心とした芸術学部生で、録音も放送学科録音スタジオで粧美由紀技術員が中心となって行われました。

放送されたのは「飛行機」篇20秒（コピー・演出：谷田部陸）、「つついっ応援したくなっちゃう」篇20秒（コピー・演出：石橋愛菜）、「目標」篇20秒（コピー・演出：池田知優）、「自主創造」篇20秒（コピー・演出：小高明依奈）の4作品。これらの作品は日本大学芸術学部ホームページ内の放送学科ウェブサイト（URLは以下）で聞くことができます。

<https://www.nua-broadcast.net/event/23121900.html>

ぜひ聞いてみてください。

## ■第16回アジアテレビドラマカンファレンスに参加

2023年12月3日から5日にかけて、石川県七尾市で開催された「アジアドラマカンファレンス」に放送学科の学生（今井愛美さん、久松玲子さん）がボランティアスタッフとして参加しました。アジア各国から約300名のテレビドラマ制作者、脚本家が集う会議の進行・運営サポートにあたり、二人にとってもテレビドラマの現在について考える良い機会となりました。

二人の他にも放送学科からは、開催地にある七尾高校出身の中町綾子教授も会議に参加し、歴史小説家の安部龍太郎さん、映画監督の池田千尋さんのトークイベントの司会進行を担当しました。

## ■定年退職者のお知らせ

30年以上にも渡ってテレビ制作実習、ゼミナールなど、映像制作に関する実習、講義科目を担当されました鈴木康弘先生が2024年3月で定年を迎えられました。

鈴木先生は2009年6月から2023年8月迄の15年間、放送学科主任として学科の運営に多大なる貢献をされました。2024年4月からは特任教授としてテレビ制作実習などを担当されます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

また、非常勤講師として長くラジオ制作実習を担当されました田中千恵先生、音響技術実習を担当されました藤田厚生先生も定年を迎えられました。本当にありがとうございました。これからもどうぞお元気でいらしてください。



## デ ザ イ ン 学 科

## ■JAGDA国際学生ポスターアワード2023にてデザイン学科生が入賞・入選

国内外の優れた若い才能の発見と顕彰、およびグラフィックデザインの新たな発展と進化を目的に日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）が創設したJAGDA国際学生ポスターアワード2023にてデザイン学科15名の学生が入選し、うち2名が銀賞、1名が銅賞を受賞しました。今年のテーマは「Share」でした。

## ■大河原健太専任講師が第27回岡本太郎芸術賞に入選

岡本太郎の遺志を継ぎ、次世代のアーティストを顕彰する岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）に大河原健太専任講師が入選しました。展覧会は2024年2月17日（土）から4月14日（日）まで川崎市岡本太郎美術館にて開催されました。

## ■カロリーメイト応援ポスターとメッセージカードをデザイン学科の学生がデザイン

西武鉄道との連携プロジェクトの一環として、デザイン学科の学生が受験生のみなさんを激励する応援ポスターとメッセージカードを制作しました。ポスターは西武線の車内広告のほか池袋駅をはじめ西武線各駅でも掲出されました。

## ■笠井則幸教授がジャパンシックスアワードにて審査員特別賞を受賞

同アワードは屋外広告のクリエイティブ賞としてシックスフォーマット（タテ1755mm×ヨコ1185mm）の表現技術向上を目的として創設され、今回で11回目を迎えます。笠井教授は「千葉ジェッソ」を課題に「パスる」というキャッチフレーズで作品を制作しました。1月下旬から2月上旬にかけて東京都内のパスターミナルの電子掲示板や千葉地区のバス掲示板に広告として掲載されました。

## ■第9回日藝デザイン卒業生・学生交流会を開催

卒業／修了制作展の開催に合わせ、デザイン学科ならびに旧美術学科デザインコースの卒業生と現役の学生が一堂に集う交流会が、2024年2月23日（金）に江古田校舎にて実に5年ぶりに開催され、総勢150名の参加者による年代を超えた交流の輪で会場となった学食は熱気に包まれていました。



# 2023年日芸祭報告



令和5年(2023年)11月3日(金・祝)~5日(日)の3日間、夏を感じさせる好天の中、日芸祭が開催されました。

今年も日芸祭実行委員会に校友会は10万円の寄付をしました。校友会は昨年に引き続き、正門入り口すぐの中庭で校友の交流場所「お休み処」のテントを設置し、西棟4階の図書館閲覧室では、日本大学芸術学部写真学科卒業生による「鉄道ジオラマと鉄道写真展」の展示を実施しました。

## ＜校友会企画展＞ 鉄道ジオラマと鉄道写真展

西棟4階の図書館では、卒業生による鉄道ジオラマと鉄道写真展を開催し、連日大盛況で多くのお客様にご来場いただきました。鯉江充氏(写S54年度卒)のジオラマは、清里フォトアートミュージアムに展示された作品の一部を展示。文芸学科主任の青木敬士教授(文H4年度卒)は故郷・苫小牧市1975年の街並みを1/150で再現して「TMSレイアウト・コンペ2021」入選1位の精巧に郷愁誘う縮小版立体模型ジオラマ作品「苫小牧1975」を展示。

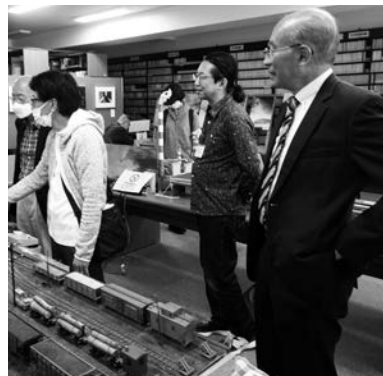
写真展は、写真学科の卒業生で構成され、2011年から毎年鉄道写真展を開催している「髭おやじとゆかいな仲間たち」(鈴木孝史、石吾克也、市川達也、鯉江充、小泉誠之、下妻孝彰、田中光子、寺澤秀治、服部一人、森真次、山崎友也、山下大祐)が鉄道写真を展示。



苫小牧出身者は食い入るように見つめていた



子どもたちもジオラマに興味津々



遠山事務局長もご来場くださいました

## <校友会交流場所>「お休み処」

コロナ禍での開催であった前年(14,199名)から一転、前年比160%に迫る22,424名の入場者がつめかけた校内に設置したテント内では校友の交流場所「お休み処」としての休憩スペースの設置、校友会活動紹介の映像放映、全国の校友会MAP・校友会年表の展示、アルコールを含むドリンクの販売を企画し運営しました。「お休み処」には、旧江古田校舎を知る先輩方や松崎しげる氏など著名な方にもご利用いただき、昔懐かしい思い出を語り合うOB・OGの皆さんで賑わい、こちらも前年比3倍の利用となり、日芸祭の定番スポットとして、会員の皆様に認知されてきた証左だと思います。

装飾展示に関する備品については、放送学科より映像放映用機材、写真学科よりパネル展示用ボード貸与のご協力を願い、多くの皆様に関心を寄せていただきました。

またドリンク販売では、生ビール・お茶、コーヒー、ジュースなどのソフトドリンクを販売

し、合計売上額は¥92,600-でした。今回の売上は全て校友会への寄付金として預かり、今後とも在校生支援の強化に繋げて参りたいと考えます。

最後に、本催しは「東京江古田会」、並

びに有志で集まっていた校友会員の皆様によるご協力のもと無事フィナーレを迎えることができました。テント設営、装飾、ドリンク販売受付などご支援いただいた皆様には、改めて感謝申し上げます。



令和5年12月21日(木)  
日芸の冬祭イベントにて  
校友会よりチョコレート  
400個を配布しました!



左より川上學部長、小橋副会長、  
鳥海先生(写真学科)、鞍掛副会長、  
庶務課池上さん

学生たちに喜んでもらえました

## 令和6年賀詞交換会を開催しました

令和6年1月13日（土）15時より芸術学部江古田校舎において芸術学部校友会常任幹事と芸術学部執行部の共催で賀詞交換会を開催しました。



## 新入生歓迎式

令和6年4月8日（月）日本武道館で日本大学の入学式が行われ、同日午後には江古田校舎大ホールにて芸術学部の新入生歓迎式が行われ田上校友会長が祝辞を送りました。



## 日本大学芸術学部校友会奨学金「日藝賞の卵」給付者決定

昨今の日本経済の状況は厳しいものがある中、学生が学業を続ける一助となるべく、日芸校友会も奨学金を設けました。日芸らしい遊び心があり、校友になっても日芸を愛し続けて欲しいという願いも込めて、「日藝賞の卵」と名付けました。

在学する2年生が新3年生となる新学年に、学内外における諸活動において実績をあげた学生を各学科の推薦を元に、年間10万円を給付するものです。

第1回の給付生は以下の通りです。

写真学科 小泉 志穂／映画学科 中村 祐香／美術学科 橋本 悠／音楽学科 酒井 俊平／文芸学科 平野 大／演劇学科 藤田 滯／放送学科 中山 歩笑／デザイン学科 野内 万葉  
学生諸君の創作活動の励みのアシストになれば幸いです。



## 今昔江古田 B 級グルメ



江古田グルメの第2回は喫茶店、と思ったのだが、筆者が通った店……踏切手前の「カルチェ」とか南口の「トキ」もない。なので今回も定食屋さん。

今の北口は武蔵野音大の方に定食屋さんはあるが、日芸方面にはないのが寂しい。一方南口には、前回ご紹介した「好々亭」の他にも多くの定食屋・洋食屋さんがある。

今回は「ランチハウス」へ。

こちらは、学生や住民の腹を満たし続けて 36 年。ランチと言いつつ夜も開いている。

メニューを見るといつも目移りするセットの多さが嬉しい。寡黙なようで話しかけると饒舌なマスターが作る洋食は、懐

かしい味。今回はハンバーグ定食を戴いたが、昨今のステーキ専門店にはない特製ドミグラスソースが絡んだハンバーグはいつまでも食べたい味だ。添えられたナポリタンも味を超越した風情を感じる。

学生街に定食屋あり。大切にしたい。

（会報誌委員 Y）



## 日藝博覧会開催！

誰でも日藝で学べる2日間というキャッチコピーで令和6年3月16日（土）～17日（日）に日藝博覧会が開催されました。下記リンクよりアーカイブをご覧ください。  
<https://cross.art.nihon-u.ac.jp/nichihaku#list-gakka>

## 準会員(在学生)向け会報誌 発送方法の変更について

郵便料金の値上げに伴い、現在準会員(在学生)向けに発送していた会報誌の発送方法を変更いたします。今号(112号)は従来の郵送と芸術学部のみよりデータで学生本人に発送し、秋号(113号)よりマイポータルからの発送のみに変更いたします。急な変更となりますがご理解いただきたくお願いいたします。

## IT委員会からのお知らせ

校友会ホームページに「校友たちの活躍」というイベント情報の掲載欄があります。  
(<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/activity/>)  
全国の校友の皆様、展覧会、出版、公演などイベントを開催されるときにはぜひ情報をお寄せください。在学生のイベント情報も掲載できます。(学生の情報掲載は、各学科の先生を通じて校友会事務局に連絡をお願いいたします。)

## 寄付のお願い

皆様からの寄付を募っています。1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。寄付金は校友会活動に有効に使わせていただきます。振込先などのお問合せは日芸校友会事務局まで。

## 同窓会支援プロジェクト

校友会が同窓会開催のお手伝いをします。校友会名簿を元に、同窓会開催の案内郵送の住所ラベルにプリント、封筒貼りから発送など、実費で引き受けます。(ご希望に添えないこともあります)詳しくは校友会までお問合せください。

## 住所変更等のご連絡について

住所等の変更がありましたら校友会事務局までご連絡ください。市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡をお願いいたします。

### 校友会事務局

電話／(03)3554-5363  
メール／[ekoda.koyu@gmail.com](mailto:ekoda.koyu@gmail.com)  
HP／<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>  
(トップページの“CONTACT”より「登録情報の変更」フォームにご入力ください)

## 編集後記

H3ロケットで打ち上げ予定の超小型衛星てんこう2を、理工×芸術学部の方で『宇宙工学+エンタメ』化し、宇宙を身近に引き寄せるプロジェクト「N.U Cosmic Campus」の展示が、2024年1月10日から1ヶ月間、文部科学省のエントランスで日本大学を代表する研究として行われました。宇宙からバーチャルキャラクターの声を届けられる日が楽しみです。(青木)



## 日本大学芸術学部校友会

日本大学芸術学部校友会報・第112号

2024年春季号 ● 令和6年5月発行 ●

非売品

不許可転載

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、鯉江 充、青木 敬士
- 表紙 チョン スヒョン (全 修賢)  
『THE VISIBLE UNIVERSE : NER SUPERCLUSTER』
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエート株式会社  
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル  
電話 03-3814-1225

●発行所

日本大学芸術学部校友会  
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1  
日本大学芸術学部内  
電話 (03) 3554-5363  
事務担当 星野 祥子

URL : <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>  
メールアドレス : [ekoda.koyu@gmail.com](mailto:ekoda.koyu@gmail.com)



8つのアート1つのハート

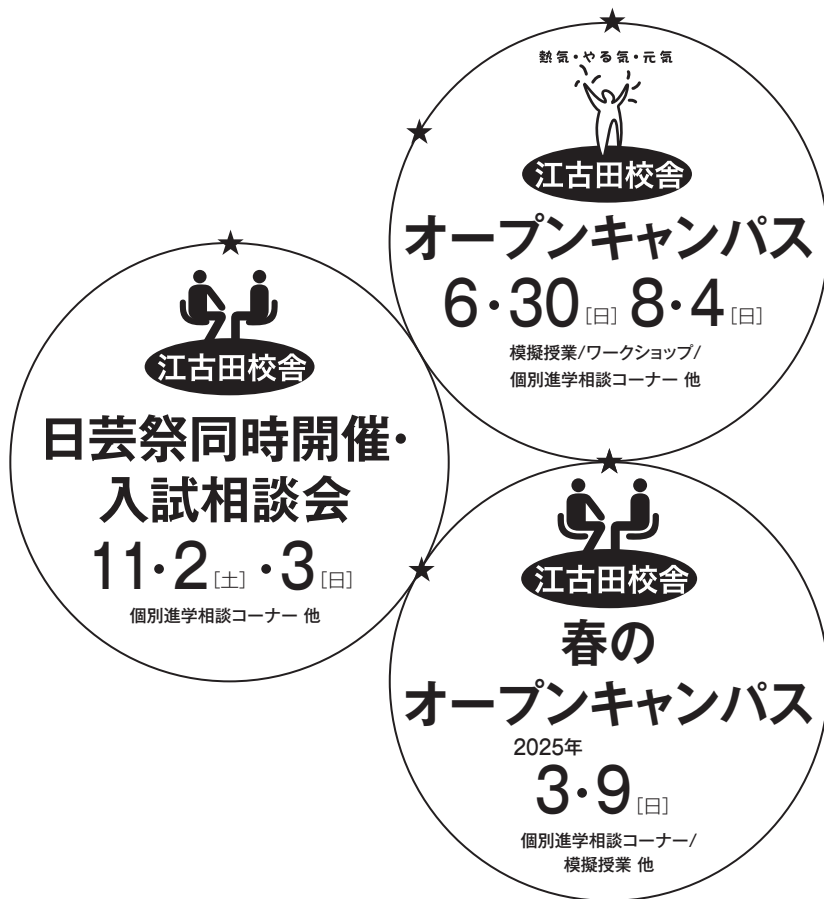
# 日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

## ◆ 大学 院 芸 術 学 研 究 科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻



8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘 2-42-1 TEL.03-5995-8282